

薬学研究科

(1)薬学専攻 博士課程

●学位授与の手引き

1 薬学専攻の修了認定・学位授与の方針

ディプロマ・ポリシー（修了認定、学位授与に関する方針）を参照。

2 学位論文の提出資格について

【課程による博士】

- ① 本専攻博士課程 4 年次に在学する者
- ② 本専攻博士課程に 4 年以上在学している者
- ③ 本専攻博士課程に 4 年以上在学し、単位取得満期退学後 1 年以内の者
- ④ 本専攻博士課程 3 年次又は 4 年次に在学しており、特に優れた研究業績をあげていると認められる者

【課程によらない博士】

(1) 4 年制薬学部卒業の者又はそれと同等の学力を有する者で、以下の項目の一つに該当する研究歴を有する者。

- ① 大学又は短大、専門学校などの教育研究機関で 6 年以上（大学院修士課程在籍期間を含む）
- ② 国公立の研究試験機関などで 8 年以上（大学院修士課程在籍期間を含む）
- ③ 経歴が上記の双方にまたがる場合は、通算で 7 年以上

(2) 6 年制薬学科卒業の者又はそれと同等の学力を有する者で、以下の項目の一つに該当する研究歴を有する者。

- ① 大学又は短大、専門学校などの教育研究機関で 4 年以上
- ② 国公立の研究試験機関などで 6 年以上
- ③ 経歴が上記の双方にまたがる場合は、通算で 5 年以上

3 学位論文審査の要件について

学位論文を作成提出し、論文発表会において発表すること。

【課程による博士】

- ① 学位論文の内容（又はその一部）を主題として査読付き学術雑誌に公表又は受理された原著論文が 2 報以上あり、その 1 報は申請者が筆頭著者であること。ただし、原著論文が学位論文の内容を十分網羅していれば 1 報（申請者が筆頭著者であること）でも可とする。また、提出資格④による場合以外は、申請時点で論文が投稿受付済みであれば、公表又は受理されていなくても申請を認める。
- ② ①の原著論文に関して、共著者全員からの規定に従った承諾書が添付されていること。

【課程によらない博士】

- ① 学位論文の内容（又はその一部）を主題として査読付き学術雑誌に公表又は受理された原著論

文が3報以上あり、その2報は申請者が筆頭著者であること。

- ② ①の原著論文に関して、共著者全員からの規定に従った承諾書が添付されていること。
- ③ 修士（博士前期）課程を修了していない者については、学位の最終審査に先だって外国語（英語）の能力を確認する試験を行う。

4 学位論文審査の手順

(1) 学位授与申請に必要な提出書類

【課程による博士】

書類の提出にあたっては、指導教授及び薬学部事務室担当者の指導を受けること。

	提出書類	提出時期	提出部数
①	予備審査願	予備審査申請時	1通
②	論文内容の要旨（予備審査用）	同上	部数は下記
③	履歴書	同上	2通
④	論文審査願	最終審査申請時	1通
⑤	論文目録	予備審査申請時	部数は下記
⑥	学位論文（仮綴）	最終審査申請時	3部
⑦	学位論文を構成する論文（別刷・コピー）	予備審査申請時	各3部
⑧	上記論文の共著者承諾書	同上	論文ごとに1通
⑨	論文内容の要旨（本審査用）	最終審査申請時	部数は下記

注) ②⑤⑨については、(薬学研究科委員の人数+2)部を提出する。

(2) 学位授与までの主な手順

① 予備審査の申請（9月）

- ◆ 9月末までに、指導教授を経由して、書類①②③⑤⑦⑧により申請する。
- ◆ 受理した書類②③⑤を研究科委員に配布し、学位申請の内容を周知する。

② 予備審査（10～11月）

- ◆ 10月の研究科委員会で予備審査員（指導教授以外の研究科委員4名）を選任し、書類②③⑤⑦⑧に基づく予備審査を始める。
- ◆ 11月の研究科委員会で予備審査に合格した論文については、主査（原則として指導教授）及び副査（予備審査員から2名）を選任する。なお、主査の判断によって、学内外の教員等を副査に追加することができる。
- ◆ 予備審査結果は指導教授を通じて申請者に通知する。

③ 論文作成指導と総合指導（11～1月）

- ◆ 申請者は、主査の指導及び副査の助言（総合指導）を受けて、学位論文（仮綴）（書類⑥）を作成し、論文内容の要旨（書類⑨）をまとめる。
- ◆ 申請者は、学位論文発表会（次項）の要旨原稿（書類⑨と同一内容）を、発表会の1週間前までに薬学部事務室に提出する。

④ 学位論文発表会（2月上旬）

- ◆ 公開の学位論文発表会を最終審査（3月上旬）の1ヶ月前頃に開催する。発表時間は質疑応

答を含めて 40 分（発表 30 分、質疑 10 分を標準）とする。

- ◆ 学位論文発表会后、薬学研究科委員会を開催して最終審査に進むことの可否を決定し、結果を申請者に通知する。
- ⑤ 学位論文審査手続と最終審査（2～3月上旬）
 - ◆ 最終審査を受ける申請者は、速やかに書類④～⑨による論文審査申請手続を行う。
 - ◆ 論文審査手続完了後、主査・副査は書類⑤～⑨に基づく学位の最終審査と最終試験を行い、審査報告書を作成して研究科長に提出する。
 - ◆ 研究科委員会を 3 月上旬に開催して審査報告書に基づく審議を行い、学位授与の可否を決定して結果を学長に報告する。
- ⑥ 学位論文（電子データ）の提出
 - ◆ 学位授与後 3 ヶ月以内に提出する。

【課程によらない博士】

(1) 学位授与申請に必要な提出書類

書類の提出にあたっては、紹介教授及び薬学部事務室担当者の指導を受けること。

	提出書類	提出時期	提出部数
①	予備審査願	予備審査申請時	1 通
②	履歴書	同上	部数は下記
③	学位論文（仮綴）	同上	5 部
④	論文目録	同上	部数は下記
⑤	学位論文を構成する論文（別刷・コピー）	同上	各 5 部
⑥	上記論文の共著者承諾書	同上	論文ごとに 1 通
⑦	参考論文（別刷・コピー）	同上	各 5 部
⑧	研究歴証明書	同上	1 通
⑨	論文内容の要旨（本審査用）	同上	部数は下記
⑩	論文審査願	最終審査開始時	1 通
⑪	論文内容の要旨（最終審査用）	同上	部数は下記
⑫	戸籍抄本	同上	1 通

注) ②④⑨⑪については、（薬学研究科委員の人数+2）部を提出する。

(2) 学位授与までの主な手順

① 予備審査の申請

- ◆ 学位授与時期（7 月、11 月、3 月）の 6 ヶ月前の月末（1 月末、5 月末、9 月末）までに紹介教授を経由して、書類①～⑨により申請する。
- ◆ 受理した書類②④⑨を研究科委員に配布し、学位申請の内容を周知する。

② 予備審査

- ◆ 2、6、10 月（申請受理翌月）の研究科委員会で予備審査員（紹介教授以外の研究科委員 4 名）を選任し、書類②④⑤⑥⑧⑨に基づく予備審査を始める。
- ◆ 3、7、11 月（予備審査員選任翌月）の研究科委員会で、予備審査に合格した論文については、主査・副査を選任する。（紹介教授を主査とすることを原則とするが、研究科委員会の判断

によって別の教員を主査とする場合もある。副査は予備審査員から 2 名を選任する。なお、主査の判断によって、学内外の教員等を副査に追加することができる。）

- ◆ 予備審査結果は速やかに申請者に通知する。

③ 主査・副査による学位論文の査読と指導

- ◆ 主査・副査は、「学位論文（仮綴）」（書類③）を査読して申請者に指導・助言を与える。申請者は、指導・助言に従って学位論文など（書類③⑨）を改訂する。
- ◆ 申請者は、学位論文発表会（次項）の要旨原稿（書類⑨の改定版）を、学位論文発表会（次項）の 1 週間前までに薬学部事務室に提出する。

④ 学位論文発表会と外国語能力試験

- ◆ 公開の学位論文発表会を、最終審査を行う研究科委員会（3、7、11 月上旬）の 1 ヶ月前頃に開催する。発表時間は、質疑応答を含めて 40 分（発表 30 分、質疑 10 分を標準）とする。
- ◆ 修士（博士前期）課程を修了していない申請者に対する外国語（英語）の能力試験は、原則として学位論文発表会当日の午前中に行う。
- ◆ 学位論文発表会后、研究科委員会を開催して最終審査に進むことの可否を決定し、結果を申請者に通知する。

⑤ 学位論文審査手続と最終審査

- ◆ 最終審査を受ける申請者は、速やかに所定の論文審査料を納付し、書類⑩～⑫による論文審査申請手続を行う。
- ◆ 論文審査手続き完了後、主査・副査は書類③⑤⑦⑪に基づく学位の最終審査と最終試験を行い、審査報告書を作成して研究科長に提出する。
- ◆ 研究科委員会を 3、7、11 月上旬に開催して審査報告書に基づく審議を行い、学位授与の可否を決定して結果を学長に報告する。

⑥ 学位論文（電子データ）の提出

- ◆ 学位授与後 3 ヶ月以内に提出する。

5. 学位論文審査における審査項目

- (1) 研究テーマが博士（薬学）の学位論文の題材としての妥当性を有しているか。
- (2) 研究目的が明確で、研究の背景となる領域の知識や先行研究の成果と適切かつ論理的に関連付けられているか。
- (3) 研究目的に適した研究方法とそれにふさわしい実験計画が立てられているか。
- (4) 実験結果は正確で確実性を有し、それらを適切に評価、考察しているか。
- (5) 実験結果から導き出される事実を適切に積み上げ、研究目的の達成に向けて説得力のある議論が展開されているか。
- (6) 研究成果に学問的に有益な新しい知見が含まれており、それらに関する先行研究の成果と関連付けた客観的な評価がなされているか。また、それらに基づく将来への展望が述べられているか。
- (7) 論文の構成（題目、要旨、緒言、実験方法、結果と考察など）は適切で簡潔であるか。
- (8) 実験データを表す図表は適切か。また、不必要又は重複する図表が含まれていないか。
- (9) 文献の引用が十分であり、引用及び文献内容との対応が適切になされているか。
- (10) 査読付き学術雑誌に公表又は受理された原著論文が既定数以上あるか。